

C-23 人体外形の非対称性(第3報)

鹿児島県立短大 ○茅野艶子 伊地知貴子

目的 第2報では短大学生の体型を観察し、左右差出現に関する個体差の傾向を知ることができたが、今回は小学生の体型について非対称^性出現の個体差・年齢差・性差を考察するために本実験を行った。

方法 被験者は鹿児島市立下小学校在学の健康な児童9才～12才の4年令男女合計382名について、昭和48年7月 シルエット-Ⅱ型による写真計測を行ったが、今回はそのうち9才(男子49名、女子51名)、12才(男子45名、女子47名)について検討を試みた。計測方法は前報と同じであるが、被験者の服装は男女とも水泳着を着用させ、前面・右側面・後2面の計4面を撮影した。今回の研究項目は、肩峰高・中指尖高・脇胸囲点高・肩線傾斜角度・肩峰点・脇胸囲点距離ならびに身長・体重である。

結果 体幹部の外形における非対称性が個体の偏いとして目立ちやすい肩部と、脇胸囲点高の左右差の関係は、肩峰点・脇胸囲点距離の左右差の出現様相と密接な関係を示している。また肩峰点・脇胸囲点距離の非対称性の出現率は9才より12才が高く、女子より男子が高い値を示している。